

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577300407		
法人名	社会福祉法人 一仁会		
事業所名	グループホーム天王園		
所在地	山口県周南市大字大河内1109-2		
自己評価作成日	令和元年5月2日	評価結果市町受理日	令和 1年11月 5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和元年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①音楽セラピー、押し花教室他様々なボランティアの方が来られ、地域の幼稚園や小学校の運動会の参加、小学生との交流会、中学生の福祉体験、高校生の職場体験等で地域の方との交流を大切にしている②ボランティアの協力もありほぼ毎月外出をして季節を感じてもらえる③事業所で3食の食事作りと、個人に合わせた食事形態の提供④委員15名による2か月毎の運営推進会議と身体拘束適正化委員会会議開催⑤モップがけ、洗濯物たたみ等できることを生かした生活⑥年2回の家族会の開催(試食会有)⑦毎日の健康体操⑧医療面は法人の看護師に相談でき、医師の診察も園内でできる⑨同一敷地内の特養、DSの演芸などの慰問の参加⑩グループホームだよりの発行(年4回)毎月手紙で家族に状況報告をし、利用料支払いに来られた際に意向要望等の意見交換ができる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理栄養士の資格がある職員が、利用者の好みを取り入れながら栄養バランスの取れた献立を作成され、家族や職員からの差し入れの野菜を使って、三食とも職員が事業所で食事づくりをされています。利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭き、お盆拭きなど、一人ひとりできることを職員と一緒にしておられます。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べながら、会話を楽しまれています。利用者の状態に合わせて、食事の形態や量に配慮され、それぞれに合わせた食器の使用など工夫されています。季節に合わせた食事や家族会での家族と一緒に昼食会、利用者の好み(寿司、刺身、ケーキなど)を取り入れた誕生日の祝い膳、家族の協力を得ての外食など、利用者が食事を楽しむことができるよう支援しておられます。事業所では、電話や面会時、毎月の利用料支払時、家族会時など、機会あるごとに、家族から意見や要望を聞いておられます。毎月の請求書送付時に、利用者の様子を伝えておられたり、利用者個人のアルバムを作成して、面会時に家族に見てもらわれたり、家族との関係づくりに努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内2ヶ所に掲示し意識付けをしている。また毎月の職員会議の前に全員で理念を唱和し実践につなげるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の職員会議の前に、職員は理念を唱和して共有し、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5団体のボランティアの訪問、地域の幼稚園や小学校の運動会に参加、小学生との交流会、中学生の福祉体験、高校生の職場体験等で地域の方と交流をしている。また毎年秋にはぶどう狩りに行き農園の方々との交流を深めている。	利用者は、近くの小学校の運動会に出かけて競技に参加したり、来訪した小学生と一緒に七夕飾りをつくるなど、交流している。押し花や折り紙、紙芝居、歌、ゲーム、外出支援などのボランティアが月1回来訪している他、フラダンスで来訪しているボランティアや法人施設である演芸を観ているなど、利用者が楽しめるように支援している。中学生の体験学習や高校生の実習を受け入れている。地域住民との交流に努めているが、日常的に交流するまでには至っていない。	・日常的な地域とのつきあい方の工夫
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方や実習生、運営推進会議に参加されている方に認知症の理解と支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	内部研修で意義を理解してもらい、全員で自己評価を記入し、管理者と計画作成担当者がまとめている。評価が出たあと目標達成計画を立て改善に取り組んでいる。	職員は評価の意義について内部研修で学び、月1回の職員会議で項目ごとに振り返りをしている。全職員で個々に自己評価したものを、管理者と計画作成担当者でまとめている。外部評価結果を受けて立てた目標達成計画に沿って、課題について問題意識を持って、介護をより一層注意して、日々支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開催し状況報告や活動報告をして助言をいただいたり意見交換をしている。	会議は、2ヶ月に1回開催している。写真を活用した現況報告や行事報告、ヒヤリハット・事故報告などをして、意見交換をしている。適正なセンサー利用についての意見があり、身体拘束適正委員会で再検討しているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員に市の職員が2名参加していただいております、報告をしたり意見を聞いたりしています。	市担当者や地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の時に情報交換している。市との対応は、主に法人がしており、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年度より身体拘束適正化検討委員会を運営推進会議の終了後に委員の方々の協力を得て開催している。また外部研修と内部研修で身体拘束について勉強し正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束に関するマニュアルや研修で学び、身体拘束について正しく理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。2ヶ月に1回行っている運営推進会議の後、身体拘束適正化委員会を開催し、事例検討などを実施している。スピーチロックに気づいた時には、管理者が注意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学んでいる。何が虐待に当たるのかを具体的な例を挙げながら周知徹底し、思い当たる場面に遭遇したらお互いに注意し、即改善する。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で資料を見ながら知識を得ている。今現在は対象者なし。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書の読み上げでの説明をしている。疑問、不安等あれば理解・納得をしてもらえるまで丁寧に説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に家族に説明をしている。苦情に対しては意見箱を設置するなど受付体制ができています。毎月の手紙や面会時にも声掛けをして気づきや要望を伝えやすい環境づくりに努めている。要望等があった場合には職員会議等で話し合い解決できるよう対策を立てている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。電話や面会時、毎月の利用料支払時、年2回の家族会時、運営推進会議時、行事参加時などで、家族から意見や要望を聞いている。毎月の請求書送付時に管理者が利用者の状況を報告したり、年4回発行の事業所だよりを送って、利用者の様子を家族に伝えている他、利用者の個人のアルバムを作成して、家族の面会時に見てもらっているなど、家族が意見をいいやすいように、関係づくりに努めている。職員を紹介するための写真を掲示している。ケアについての要望には、その都度、職員会議で話し合って対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議、内部研修のあと職員の意見を聞く時間を設け、意見や提案を話し合うようにしている。また常日頃より話しやすい環境作りに配慮している。	月1回の職員会議や内部研修の中で、職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で、管理者が職員からの意見を聞いている。利用者のベッドの位置や食事についての職員の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が就業規則を読み上げながら再確認をしている。就業環境の整備は取り組みがなされている。また法人として昨年は職員全員と個人面談を行い意見を反映した環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修に参加している。毎月の法人の研修、内部研修にも取り組んでいる。	外部研修は、職員に情報を伝え、参加の機会を提供している。福祉法人合同研修会や虐待防止、身体拘束廃止などの研修会に管理者が参加し、復命報告している。法人研修は、身体拘束、心肺蘇生法、感染症予防、認知症ケアなどに参加している。参加した職員は職員会議で復命報告をし、資料をいつでも閲覧できるようにしている。内部研修は、身体拘束、救命講習、感染症予防、スピーチロック、看取りケアなど、月1回実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の運営推進会議に出席しあい交流する機会を持っている。勉強会にも参加させていただいた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活歴や病気等を把握したうえでしっかり傾聴し、寄り添い、職員や他の利用者と馴染み、職員に要望を伝えやすい環境づくりに努めている。また本人の状態変化にも素早く対応するようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話しやすい環境を整え、ヒヤリングを十分に行いグループホームで安心して生活ができるよう相談しながら支援していくことを伝えている。また小さな異変があった時にでも迅速適切に連絡をいれ、信頼関係を築いている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状態をしっかり観察し、今どのような支援が必要か、ご家族が何を希望されているのかを汲み取り、必要なサービスを提供できるよう心掛けている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線で世間話をしたり一緒に家事をしたりしている。能力に応じた手伝いをしてもらい、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠慮なく面会に来てもらうよう伝えている。面会に来られた時は歓迎し部屋、またはホールでゆっくり話ができるよう配慮している。気づきや要望があれば気軽に伝えてほしいと話している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見等、地元も含めた外出支援をしている。思い出を引き出せるような会話に努める。	家族の面会や親戚の人などの来訪がある。馴染みの美容院の利用(店から迎えがある)や家族が来訪してカットしたり、家族の協力を得ての外出、墓参り、法事や葬儀への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の調整、レクリエーションへの参加、孤立しやすい利用者への声掛けや一緒に作業できる環境作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えることができる利用者は日ごろの会話や関わりの中で思いを汲み取るようにしている。困難な場合は家族や職員と話し合い、本人本位に検討している。	入居時のフェイスシートやアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の様子を生活記録に記録して、思いや意向の把握に努めているが、十分とまでは言えない。把握が困難な場合は、家族からの情報を得て職員と話し合い、本人本位に検討している。	・思いを把握するための働きかけの工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、担当ケアマネからの情報や利用していた施設の担当者からの情報を得て、本人にも話を聞きながら把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、引き継ぎ簿、申し送りで現状の把握をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の望む暮らし、要望を取り入れて介護計画を作成している。一人ひとりの目標を職員で共有して支援している。3ヶ月毎にモニタリングを行いケアプランに反映させるようにしている。	把握している本人の思いや計画を立てる前に聞いた家族の意向、主治医や法人看護師、管理栄養士の意見を参考に職員会議で話し合い、管理者と計画作成担当者で介護計画を作成している。生活記録に介護計画を添付し、実施状況を記録して、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直しをしている。利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目ごとに記録を記入し、目標に沿った支援ができたか、課題があるかがわかりやすくまとめるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により、個別対応もしながら柔軟に支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源であるボランティアを活用している。また幼稚園や小学校の運動会にも参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意を得て協力医療機関を利用し月1回の訪問診療がある。小さな事で、すぐに相談でき対応してもらえることができる。家族の要望にも対応してもらえる。	本人、家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回、法人施設への訪問診療時に受診している。歯科受診は協力医療機関への受診を支援している。受診の結果は、電話や面会時に家族に報告している。他科受診は、家族の協力を得て支援している。受診時は、職員が利用者の情報を口頭で伝えている。日常の健康管理は、法人看護師の指示やアドバイスを受けて職員がしている。夜間や緊急時には、管理者に連絡をし、法人の看護師や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内の特養の看護師に報告、相談できる体制ができていて、定期的にも突発の際にも適切な受診や看護を受けることができる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーがすぐに提出できるように準備をしている。入院中はこまめに様子を見に行くようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や家族会時に事業所の対応について家族に口頭で説明している。実際に重度化した場合は、看取りについて家族に説明をして同意を得ている。看取りになった時は医師、家族、管理者、職員とで話し合っ看取り計画書を作成し、方針を共有して支援に取り組んでいる。内部研修でも看取りについて勉強会を実施している。	重度化した場合や終末期に事業所ができる対応について、契約時や家族会時に家族に口頭で説明している。実際に重度化した場合は、看取りについて家族に説明し同意を得た上で、家族や医師、法人看護師、管理者、職員と今後の方針について話し合い、介護計画を看取りに向けて作成しなおし、医療機関への入院や他施設への移設を含め、方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。職員は看取りについて内部研修で学んで看取りを実施している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故が発生した場合は全職員がマニュアルに沿って同じ対応をしている。緊急時は法人の看護師の協力要請を整えている。事故が起こった場合、状況や原因、対策を検討して再発防止に努めている。また事故が起きたときに慌てないよう内部研修で初期対応の定期的訓練を行っている。	事故発生時の対応マニュアルがあり、全職員が個々に持っており、マニュアルに沿って対応している。事例が発生した場合は、ヒヤリハット・事故報告書に、その場にいた職員で状況や要因、対応策を記録して回覧し共有している。職員会議で検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。消防署の救命講習（上級）に、管理者が参加し、転倒や出血、嘔吐などについて復命し、嘔吐について実習を実施している。職員は、消防署の協力での救急救命研修で心肺蘇生やAEDの使用方法について学んでいる。法人看護師とは常に連絡が取れ、すぐに対応している。初期対応や応急手当について、内部研修で管理者が指導している。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月事業所独自の避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行い、避難方法、避難経路を確認している。また消防署の協力も得て、法人全体で通報、消火、避難誘導訓練も行っている。地域住民による協力体制も整っている。	消防署の協力を得て法人全体で実施している消防訓練には、事業所から職員1名が参加し、通報訓練、避難誘導訓練、消火訓練を行っている。毎月1回、外出支援に合わせて事業所独自で避難訓練を実施している。そのうち1回は、夜間を想定した訓練に合わせて、毛布を使った避難訓練や消火器の置き場所の確認をしている。利用者の居室入口に、歩行状態を示すマークを貼って、避難誘導時の支援方法を確認している。緊急時の連絡網に地域の人が1名加入している。法人として地域の協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各部屋への出入りの際のノックや声掛け。排泄介助、入浴時は必ずドアを閉める。個人的な内容の話は個々にする。不適切な対応は管理者や気づいたものが指摘する。内部研修で接遇を勉強している。	職員は、利用者一人ひとりの人格の尊重と誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応に気づいた時には、その都度管理者が注意や助言をしている。年1回、個人情報保護について学び、職員は理解している。個人記録の保管や取り扱いに気をつけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団での作業や行動を強要しない。自己決定ができるような選択肢と質問を用意し、思いが伝えられるような雰囲気作りをしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の体調や思いに沿って1日が過ごせるよう心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪ができない方は支援し身だしなみを保つ。着替えも本人の意思を尊重しながら季節に合った洋服を提案。2か月に一度の有料理容を活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の資格がある職員が本人の嗜好も聞いて献立を作成している。三食とも事業所で職員が作っており、刻み食やミキサー食にも対応している。誕生日や行事の日には行事食を提供している。テーブル拭き、下膳等できる利用者には手伝ってもらっている。職員も一緒に食事をして家庭的な雰囲気を持てるようにしている。	管理栄養士の資格がある職員が、利用者の好みを取り入れながら、栄養バランスの取れた献立を作成している。業者からの配達の食材の使用や、家族や職員からの差し入れの野菜を使って、職員が勤務に合わせて三食とも事業所でつくっている。利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭き、お盆拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べながら、会話を楽しんでいる。利用者の状態に合わせて、きざみ食やミキサー食、おかゆなど食事の形態や量に配慮している。利用者個々にあった食器を使用しているなど工夫している。季節の行事食(おせち、恵方巻、ひなまつりの寿司、ソーメン流し、彼岸のおはぎ、クリスマスケーキ)、家族会での昼食会、寿司や刺身、ケーキなど、利用者の好みを取り入れた誕生日の祝い膳、家族の協力を得ての外出など、利用者が食事を楽しめるよう支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に3食の食事がバランスよく摂れるよう献立を工夫している。水分は食事以外の時間帯にもこまめに提供している。食事量や水分量は「日常生活記録」に残し共有している。必要に応じては個別に支援している(糖尿病)。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕は職員介入で口腔ケアをしている。義歯の洗浄も行う。必要に応じては口腔ケアスポンジやウエットシートも使用してケアをしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事前や活動前には声掛けをしている。排泄チェック表をつけており、一人ひとりのパターンや間隔を把握し支援している。トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で把握している。果物、ヨーグルト、食物繊維の多い食品を使用。こまめな水分摂取、毎日の体操で便秘を予防している。それでも改善がみられない場合は主治医と相談。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は日曜祝日以外いつでも可能だが、基本13時30分から15時30分までを入浴時間に行っている。利用者の体調に合わせて清拭、シャワー浴で対応。本人の同意を得て入浴をしている。本人のできない部分だけを介助するようにしている。入浴剤や柚子湯で入浴を楽しむ支援をしている。	日曜日以外の毎日、13時30分から15時30分までの間入浴が可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週2～3回は、ゆっくり入浴できるように支援している。利用者は、入浴中、職員との会話を楽しんでいる。利用者の状態に応じて、清拭やシャワー浴で対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドを清潔に保っている。好きな時間に横になって休むことが出来る。入眠も本人の希望時間に応じている。室内温度や湿度、明るさにも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理簿を作成しているのでいつでも閲覧でき確認できる。管理は職員が行い薬が変更した場合も全員が把握できるように説明している。誤薬防止のため薬ケースに写真を貼り、薬を飲む前には必ず名前の確認をしている。変化があればすぐに主治医に相談する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、新聞読、テレビ視聴、歌、体操、調理、洗濯物たたみ、脳トレ、ゴミ箱作り、散歩、外出等で楽しい時間が持てるよう支援している。また誕生日や敬老の日等の行事でのお祝いの会もしている。嗜好による個別メニューにも対応している。	テレビ視聴、週刊誌や新聞を読む、脳トレ（漢字、計算）、習字、ぬり絵、貼り絵、手づくり歌詞カードに合わせて歌う、カラオケ、カルタ、カードゲーム、輪投げ、玉入れ、風船バレー、健康体操、DVD体操、タオル体操、季節の行事（節分、ひなまつり、七夕、ソーメン流し、クリスマス会）を楽しむ、小・中・高校生との交流、ボランティア（押し花、折り紙、紙芝居、歌、フラダンス）との交流、法人の秋祭りへの参加、モップかけ、布団カバーかけ、カーテンの開閉、洗濯物干し、洗濯物たたみ、新聞紙でのごみ箱づくり、市指定のゴミ袋の名前書き、食事前のあいさつ、野菜の下ごしらえ、お盆拭き、テーブル拭きなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には周辺の散歩をしている。また月に一度は車で外出し、季節の花見やぶどう狩り、八代のツル見、初詣等に出かけている。家族のお迎えによる墓参り、一時帰宅等戸外に出る機会を得ている。	法人施設敷地内の散歩、初詣、桜やバラ、紅葉などの花見、小学校の運動会への参加、ぶどう狩りなど、外出支援ボランティアの協力を得て出かけている。家族の協力を得ての外出、外食など、利用者の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金を所持されていない。必要なものがあれば家族に相談して職員が購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。電話も要望があればいつでもかけることができる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間は毎日の掃除や消毒で清潔を保つようにしている。季節感のある壁面作りや、花を活けたりしながら季節感を取り入れ温かい雰囲気作りを心掛けている。加湿器、温湿度計をホールと各部屋にも設置し管理している。また毎朝換気もしている。	リビングダイニングには、自然の光が差し込んでいて明るい。テーブルや椅子、テレビ、ソファ、長椅子、電子ピアノなどが配置しており、利用者が思い思いに過ごせる居場所づくりをしている。季節の花を生けたり、花鉢を置き、壁面に季節行事の時の写真やカレンダーを飾って季節感を採り入れている。グッピーの水槽があり、利用者が眺めたり、えさやりをしている。キッチンからは、調理の音や匂いがして、生活感を感じることができる。温度や湿度、換気に注意して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも自室でゆっくりすることができる。お互いの部屋も行き来できる。ホールには長椅子が置いてあるので好きな場所で過ごすことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染の家具や品物を持参してもらっている。自室内の配置は本人と家族と相談しながら設置している。ホームで作った作品や家族会の写真を飾って居心地の良い空間作りを心掛けている。	タンス、三段棚、衣装ケース、衣装かけ、テレビ、時計、クッション、ごみ箱、アルバム、化粧品、生活用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる。家族手づくりのミニ掛け軸やカレンダー、家族会の時の写真、家族の写真、ぬり絵や押し花の自分の作品などを飾って、本人が安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が迷わないよう場所の確認のためトイレ、風呂と書いてあり、迷わず行けるようにしている。また食堂の席、自室の入口にも名前が記載されているので自分の居場所として把握している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム天王園

作成日: 令和 元 年 10 月 19 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	ボランティアの訪問や学生の職場体験や福祉体験等で地域の方々と交流をしているが、日常的に交流するまでには至っていない。	日常的にも近所の方や地域の方が気軽に出入りできる環境づくりをする。	①自治会の行事に参加して顔なじみをつくる。 ②運営推進会議委員の地域の方や民生委員の方に協力をお願いして地域の方とふれあうことができる環境をつくる。	1年
2	35	事故が発生した場合は、マニュアルに沿って同じ対応をしている。また月に一度の職員会議で再検討をし事故防止に取り組んでいる。しかし、様々な場面での緊急を要する場合があるので、慌てないよう初期対応の訓練の継続が必要。	全職員が応急手当、初期対応の実践力を身につける。	①外部研修に参加し最新の正しい緊急時の対応を身につける。 ②月1回実施される職員会議の中で正しい緊急時の対応、応急手当の演習を定期的に行う(誤嚥・とっさの怪我等)。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。